

アグネス園 感染症の登園基準

※主治医の診断を受けてから登園してください。感染症にかかったら園へ必ず連絡ください。

●印のついた病名は医師による意見書提出をもつての登園となります。

	病名	潜伏期間	感染経路	症状・特徴	感染しやすい期間	登園の目安
●	麻疹(はしか)	10～12日	飛沫 接触 空気	高熱、咳、鼻水、結膜充血、目やに等	発症2前から発しん出現後4日後まで	解熱後3日を経過し、医師の許可があること
●	風しん	16～18日	飛沫 接触	発しんが顔や頸部に出現し、全身へと拡大する。発熱やリンパ節腫脹を伴うことが多い	発しん出現の7日前から7日後くらい	発しんが消失していること
●	水痘 (みずぼうそう)	14～16日	飛沫 空気	発しんが顔や頭部に出現し、全身へと拡大する。発しんは、水疱、痂皮(かさぶた)となる	発しん出現1～2日前から痂皮(かさぶた)形成まで	すべての発しんが痂皮(かさぶた)化していること
●	百日咳	7～10日	飛沫 接触	特有な咳が特徴 連続性・発作性の咳が長期に続く	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失していること又は適正な抗菌性物質製剤による5日間の治療が終了していること
●	結核	(幼児では) 3か月程度～	飛沫 空気	慢性的な発熱(微熱) 咳、疲れやすさ、 髄膜炎症状	—	医師により感染の恐れがないと認められること
●	咽頭結膜熱 (プール熱)	2～14日	飛沫 接触	アデノウイルス感染症 高熱、扁桃腺炎、結膜炎	発熱、充血等の症状が出現した数日～3週間程度	発熱、充血等の主な症状が消失した後2日経過していること
●	流行性角結膜炎	2～14日	飛沫 接触	アデノウイルス感染症 目の充血、目やに	充血、目やに等の症状が出現した数日間	結膜炎の症状が消失していること
●	急性出血性結膜炎	平均24時間～3日	飛沫 接触	強い目の痛み、目の結膜の充血、出血、発熱	—	医師により感染の恐れがないと認められていること
●	腸管出血性大腸菌感染症 (O157、O26、O111等)	主に10時間～6日	経口 接触	水様下痢便や嘔吐、腹痛、血便、発熱	—	医師により感染症の恐れがないと認められていること。
●	侵襲性髄膜炎菌感染症(髄膜炎菌性髄膜炎)	2～10日 (平均4日)	飛沫 接触	発熱、頭痛、嘔吐、出血斑、急速に重症化する場合がある	—	医師により感染の恐れがないと認められていること

※感染しやすい期間を明確に提示出来ない感染症については(—)としている。

*インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症については、療養解除届(保護者記入)の提出をお願いします。

登園届の提出をお願いしている感染症（保護者記入）

病名	潜伏期間	感染経路	症状・特徴	感染しやすい期間	登園の目安
流行性耳下腺炎(おたふく風邪)	14～21日 (平均18日)	飛沫 接触	耳下腺の腫脹・疼痛 発熱	発症3日前～耳下腺 腫脹後4日	耳下腺の腫脹出現後5日 を経過し、かつ全身状態 が良好なこと
伝染性紅斑 (りんご病)	10～20日	飛沫 接触	頬に蝶翼状の紅斑、手足の発 疹(1週間程前に風邪症状が あることがある)	発しん出現前の1週間	全身状態が良いこと
溶連菌感染症	2～5日	飛沫 接触	扁桃炎、発熱、発疹、腹痛	適切な抗菌薬治療を開 始する前と開始後1日 間	抗菌薬服薬後24時間経 過し、食事が普段通り取 れること
手足口病	3～5日	飛沫 接触	口腔粘膜と手足の末端に水 疱性発しん、発熱	数週間便からウイルス が排出される	発熱や口腔内水疱の影響 がなく、普段の食事が取 れること
マイコプラズ マ肺炎	2～3週間	飛沫	咳、発熱、倦怠感	適切な抗菌薬治療を開 始する前と開始後数日 間	発熱や激しい咳が治まっ ていること
RSウイルス感 染症	2～8日	飛沫 接触	発熱、鼻汁 多くは軽症で自 然軽快するが肺炎へ進展す る場合がある	呼吸器症状がある間	呼吸器症状が消失し、全 身状態が良いこと
ヒトメタニュ ーモウイルス 感染症	4～6日	飛沫 接触	発熱、咳、 肺炎や中耳炎を合併するこ とがある	呼吸器症状がある間	呼吸器症状が消失し、全 身状態が良いこと
ヘルパンギー ナ	2～4日	飛沫 接触	発熱、のどの痛み 咽頭に水泡	急性期の数日間(便から 1か月程度ウイルスが 排出される)	発熱や口腔内の水疱・潰 瘍の影響がなく、普段の 食事がとれること
突発性発疹	10～14日	飛沫	3日間程度の高熱の後、解熱 するとともに紅斑や丘疹が 出現する	－	解熱し機嫌が良く全身状 態が良いこと
帯状疱疹	不定	接触	神経に沿って生じる皮膚の 痛みやかゆみ、発疹	水疱を形成している間	すべての発疹が痂痂(かさ ぶた)化していること
伝染性膿痂疹 (とびひ)	2～10日	接触	紅斑を伴う水泡や膿疱、びら ん	痂痂にも感染性が 残っている	傷に直接触らないよう にして登園可能
ウイルス性胃 腸炎(ノロウイ ルス、ロタウイ ルス、アデノウ ウイルス等)	12～48時間 ロタウイルスで は1～3日	経口 飛沫 接触	嘔吐、下痢、 脱水を合併することがある ロタウイルスは、しばしば白 色便となる	症状のある間と、症状 消失後1週間(量は減 少していくが数週間ウ イルスを排出してい る)	嘔吐、下痢等の症状が治 まり、普段の食事がとれ ること

※感染しやすい期間を明確に提示出来ない感染症については（－）としている。

適切な対応が求められる感染症

	潜伏期間	特徴
アタマジラミ症	10～30日	頭部に直接接触することで、また体や頭を寄せ合うことで感染する
疥癬	約1か月	ヒトからヒトに感染する。一緒に寝る、抱っこする、手を繋ぐ等直接的な接触が比較的長時間あった場合に感染することがある
伝染性軟属腫（水いぼ）	2～7週	皮膚と皮膚の直接接触による接触感染。タオル等を介して感染する場合もある
伝染性膿痂疹（とびひ）	2～10日	水ぶくれやびらん、かさぶたが鼻周囲、体幹、四肢等の全身に見られる
B型肝炎	急性感染では45～160日（平均90日）	ウイルスが肝臓に感染し、炎症を起こす病気である